



浜頓別町立浜頓別中学校
学校だより 第12号
R8年 2月27日発行
文責・編集・発行：教頭



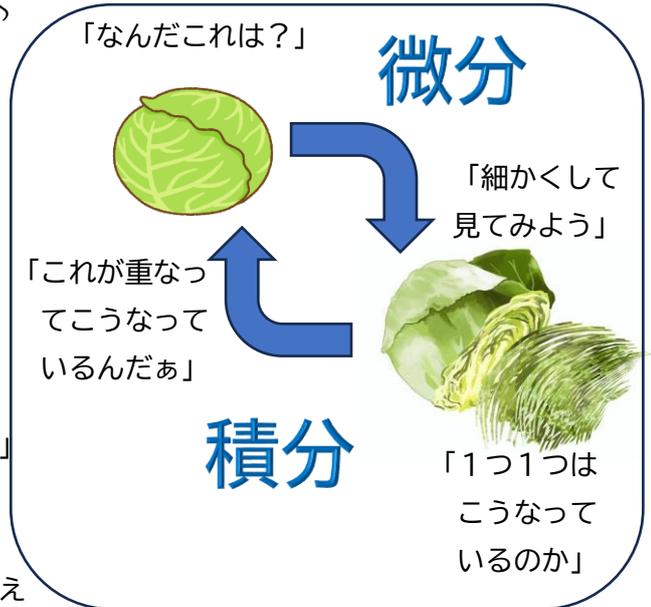
ミクロとマクロ

数学には、「微分・積分」(昔、♪微分 積分 いい気分♪
なんて替え歌が流行りましたよね)という分野があります。

ある変化について、細かく見てみるのが「微分」、細かく見たものを積み重ねて全体をとらえるのが「積分」です。キャベツで例えると右の図のようなイメージです。また、自動車の「瞬間の加速度」と「平均の速さ」の関係とも言うことができます。

このように、あるものごとをちゃんと知るためには、細かく見る視点と、その積み重ねとして全体をとらえる視点が必要になるのです。つまり、「ミクロ」の視点と「マクロ」の視点が必要です。

毎日の生活を送っていると、「ミクロ」の視点で過ごすことが多くなりがちです。一方で、「世界全体の～」などと考えだすと、「マクロ」の視点ばかりになりがちです。人間関係や自分がやること、この町をどうしていくかなど、ものごとをしっかりと知る、改善するためには、「ミクロ」と「マクロ」の視点を行ったり来たりしながら、考えることが大切ではないかな、と考える今日この頃です。



～毎日の様子 (人生を微分する)～



ポジティブ選手権！



倉田講師による
ダンスの授業



おかわりジャンケン！



南宗合同学習の様子①



調理実習 (生姜焼き)



倉田教諭による
花の染色 (理科) 授業



面接練習の様子



南宗合同学習の様子②

～新入生入学説明会～

(人生を微分する)



2月2日に、入学説明会が行われました。

授業見学や体験授業、生徒会執行部役員による中学校の説明などのプログラムがありました。小学6年生からは、「時間を見て行動できるようになりたい」「勉強をがんばりたい」といった感想が出ていました。



浜中HPはこちら



タイトル未定

校長 明石 貴宣

ミラノ・コルティナオリンピックでは日本勢が活躍しています。メダリストはもちろん努力の結晶として称賛されるべきですが、メダルまで届かなくともオリンピックになることだけでも十分称賛に値します。気になるのは、選手への誹謗中傷が後を絶たないことです。私たちが生きている社会はもっと、自他を尊重し合えるものであってほしいと切に願いますし、そういう社会を創っていきたいと思っています。でも、私に何ができるのか。

この学校だよりのタイトルが「ミクロとマクロ」ということなので、私のものの考え方の根底にあることを書いてみたいと思います。そして、それは間もなく卒業していく卒業生へのメッセージでもあります。

私は「社会を良くするには自分の半径5mを良くしなければならない。そして、社会が良くならなければ自分の半径5mも良くはならない。」という考え方を持っています。何か明確な出典があるわけではなく、これまで読んできた本や触れてきた思想、人との出会いや経験を重ねていく中で得たものです。強いて挙げるなら、back numberの「日曜日」という曲の最後の歌詞「たとえ世界を救えなくたって、有名になれなくたって、君を守るために生きられたら後悔しないだろう」という一節は考え方のヒントになっています。私はこの歌詞を「大切な人を守ることは、実は世界を救うこと」と解釈しています。

私にとっての半径5m、ミクロとはもちろん自分自身であり、家族であり、浜頓別中学校であり、自分が直接関わっている手の届く範囲です。マクロとは私たちが生きている社会であり、国や世界までも広がります。

自他を尊重し合える社会を創るためには、まずは自分自身の言動からです。そして、浜頓別中学校が自他を尊重し合える学校になることで、浜頓別を卒業した生徒たちが社会を創ってってくれます。また、浜頓別中学校に関わってくださる方々にも影響は波及します。こうしてミクロの変化は徐々にマクロを動かします。一方で、社会が誹謗中傷の起こる社会のままだと、浜頓別中学校の大切な生徒たちのことも、自分の家族も、自分自身も守ることはできません。いつ、自分の大切な人たちが犠牲になるかわからない。だからこそ、自分にできることは半径5mの範囲でも、マクロの視点も持って社会を創っていきたいと思うのです。

浜頓別中学校を卒業する生徒たちは、より良い社会を創る存在になると信じています。まずは、自分自身と自分の大切な人を守るように。そして、そのためにも、もっともっと勉強してほしいと思っています。社会を知ってほしい、大切な人を守る術を持ってほしい、何が正しいかを考える力を持ってほしい。学力とは「生きる力」です。

オリンピックはこの後、パラリンピックへと続きます。自他を尊重し合える社会を考える機会として、ぜひパラリンピックもご覧ください。